

お正月の遊び

最近ではテレビゲームなどで遊ぶ子どもが増えてきており、お正月ならではの遊びを目にする機会が減ってきましたが、日本には昔から伝わるお正月の遊びがいくつもあります。

【羽子板】

室町時代に中国から遊びとして伝わったものです。その後、羽根突きで厄払いができると信じられるようになり、江戸時代には、年末に邪気をはらうため羽子板を贈るようになりました。

また、羽根の玉に使われるムクロジという植物は、漢字で「無患子」と書くことから、子どもが患わないようにという魔よけに通じるものとして、女の子の初正月に羽子板を贈る風習が生まれました。こうして、羽根突きは1年の厄をはね、子どもの健やかな成長を願うものとして親しまれてきました。打ち損じると顔に墨を塗るのも、魔よけのおまじないからくるものです。

【たこ揚げ】

中国から伝わったもので、平

安時代には貴族の遊びとされていましたが、戦国時代には、敵陣までの距離を測ったり、遠方へ放火したりする兵器としても活用されました。やがて江戸時代になると男の子の誕生祝いとしてたこ揚げをするようになり、庶民の遊びとしても広まってきました。

こうした経緯から、羽子板は女の子の遊び、たこ揚げは男の子の遊びとされてきましたが、どちらも性別を問わず家族で楽しめるものだと思います。

その他にもお正月の遊びといえは、かるた、福笑い、すごろく、めんこ、お手玉、こま回しなど家族で楽しめるものがあります。お正月は、おじいちゃん、おばあちゃんから遊び方を教えてもらうなど、遊びを通じて家族のコミュニケーションを図り、一家団欒のひとときをお過ごしください。



健康ほっとLine

—市立総合病院の医師が健康に関する情報をお届けします—

「耳鼻科」のはなし

耳鼻咽喉科医長

伴野 真哉 医師

「じびか」と聞くと、まず中耳炎や花粉症などでかかると印象が強いと思いますが、耳や鼻の他にのどやめまい、いびきなども診察します。耳や鼻、のどといった場所は身体の中でつながっており、病気もそれぞれ関係することが少なくありません。

例えば、鼻風邪にかかった後、副鼻腔炎（いわゆる蓄膿症）をきたし、たくさん鼻水が奥からのだへ落ちると、気管支炎やのどの炎症を起こすことがあります。また鼻水が耳との換気を邪魔すると、中耳炎に至ることもあります。最初は軽い風邪でも、このように症状が増えて悪化する危険性があり、初めの対応が肝心となります。特にお子さんは、鼻すすりや耳管（耳と鼻をつなぐ管）が短いことなどから、鼻炎から中耳炎をきたすことが多いです。アレルギー性

鼻炎があれば、中耳炎になる前に鼻漏の量を含めてコントロールをしっかりと行い、感染で急に鼻炎が悪化するときは、早めの処置・投薬で中耳炎への進展を防ぐことが重要です。鼻かみ指導と鼻すすりの回避も重要な治療となります。合併症などがある

る方は、症状が軽いうちに一度かかりつけの診療所や病院を受診していただき、感冒の重症化をきたさない様に気を付けることが大事です。

のどの痛みや痒みがあるときは、扁桃炎周囲膿瘍や急性喉頭蓋炎、喉頭浮腫などの重篤な病気の場合がありますので、早めの受診が必要です。のどの奥の違和感や声がれなどの症状は耳鼻科領域に多い癌の初期症状になります。ファイバーでのどの奥までしっかり診ることができ

ますので、気になる方は耳鼻科にご相談ください。症状のない方でも、年に一度の喉頭癌検診をお勧めします。

めまいや耳鳴りでは、原因が頭や脳からくる重篤な病気ではないか、鑑別を行います。めまいは、耳以外にも脳や心疾患、血圧、自律神経、貧血、疲労などさまざまな原因が考えられます。耳の疾患や、老化が原因で起こるめまいや耳鳴りでは、内服していても繰り返す例や症状が治まらないケースが多いのですが、症状がある場合は、まず近くの診療所・病院に相談することを勧めます。